

# 人間行動の心理学(基礎)プログラム

## 人間の認知と行動の基本原則が理解できるようになります

心理学は認知や思考、行動における法則性を明らかにするとともに、実社会における問題解決に生かしてきました。本プログラムでは、必修である心理学概論の受講を通じて、心理学が幅広い領域の問題をどのような方法で扱うのか正しく理解できるようになります。その上で、知覚、認知、学習、言語、感情、人格の領域における心理学の基本となる知見について学びます。これらの知識は、臨床心理学などの心理学の応用領域を学ぶ前に必ず必要となるものです。

選択科目の知覚・認知心理学A・Bでは、対象を認識する上での心の働きや、記憶や思考に関する諸現象や基礎知識を学び、その仕組みと心理過程の特性を理解できるようになります。学習・言語心理学A・Bでは、対象に恐怖心等の感情が結びつけられる仕組みや、経験を通じて新しい行動が獲得される仕組みを学ぶことで、不適応行動の修正や適応行動を形成する基本原則について理解できるようになります。また、言語が獲得・運用される仕組みや、言語障害とそのメカニズムについて学びます。感情・人格心理学A・Bでは、感情の働きや障害について学ぶとともに、性格や人格の理論や査定の方法について理解できるようになります。

## 正課の授業科目によるリスキリングプログラム

プログラム名	人間行動の心理学(基礎)プログラム
プログラム設置部局	人間社会学域人文学類
プログラムコーディネーター	荒木 友希子
概要	心理学は、人間の行動とその背景にある心の働きに関する法則性や原理を科学的な観点から明らかにしてきました。その知見は、様々な職種の方がそれぞれの立場で利用・応用することができるものです。このプログラムでは、心理学の概要について学ぶとともに、知覚、記憶、学習、思考、感情、人格という領域の基礎的な知識を学びます。これらの個別の領域は、対象の認識のしやすさや間違いやすさ、記憶の変化による間違いや行き違い、各種の判断における歪みの傾向、行動が変化するメカニズム、ポジティブ・ネガティブな感情の働きや調節、個人差であるパーソナリティの理論と測定といった内容に関わります。本プログラムが提供する知識は、心理学のより発展的な内容を学ぶための基礎となるものです。本プログラムの修了により、実社会における人間行動について、心理学的な視点から理解・分析できるようになります。
到達目標	本プログラムの修了により、以下の能力・スキルを身につけることができます。 1. 心理学とはどのような学問か、その対象や領域、基本的な研究方法について理解できる。 2. 知覚、記憶、思考、学習、感情、人格の領域における主要な現象や研究方法について説明できる。 3. 日常生活における人間の行動について、心理学的知見に基づいて分析できるようになる。 4. 自習による学習を含めて心理学検定2級合格程度の知識を獲得することができる。
履修資格・条件・前提知識の目安	心理学を初めて学ぶ方でも履修することができます。大学等で心理学の入門的授業を履修された方の学び直しにも適しています。
履修期間及び開始Q	履修期間: Q1・Q2・Q4、開始Q: Q1
修了要件	8科目中から6単位以上を修得すること

授業科目名	開講学類等	単位数		修了要件内訳	備考
		必修	選択		
心理学概論A	人文学類	1		選択	各授業はAとBをセットで履修することが望ましい
心理学概論B	人文学類	1		選択	
知覚・認知心理学A	人文学類		1	選択	
知覚・認知心理学B	人文学類		1	選択	
学習・言語心理学A	人文学類		1	選択	
学習・言語心理学B	人文学類		1	選択	
感情・人格心理学A	人文学類		1	選択	
感情・人格心理学B	人文学類		1	選択	

特記事項	特になし
問合せ先	プログラムコーディネーター: 人間社会学域人文学系 谷内 通・荒木 友希子 メールアドレス: yukikoa@staff.kanazawa-u.ac.jp(荒木 友希子)  担当係: 人間社会系事務部学生課教務・学生支援担当 メールアドレス: n-kyomu@adm.kanazawa-u.ac.jp

プログラム名						
人間行動の心理学(基礎)プログラム						
プログラムのCP(教育課程編成に関する基本的考え方)						
本プログラムでは、心理学の基礎的分野に関連する専門教育科目を体系的に編成する。						
教育内容・教育方法(教育課程実施)に関する基本的考え方						
<p>1. 教育内容</p> <p>(1)心理学の全体像と心理学の基礎的領域の基本的知見について学ぶ。</p> <p>①必修科目である「心理学概論A」と「心理学概論B」の履修により、心理学の対象、歴史、研究法の全体像について学ぶとともに、個別の領域の基本的な知見について学ぶ。</p> <p>②受講者の関心に基づいて、「知覚・認知心理学A」「知覚・認知心理学B」「学習・言語心理学A」「学習・言語心理学B」「感情・人格心理学A」「感情・人格心理学B」の6科目から4科目以上を履修することで、対象の認識と記憶、経験と行動の変容、感情の機能と個人差の測定に関する基礎的な知見を学ぶ。</p> <p>2. 教育方法</p> <p>(1)講義の受講と課題提出による知識の整理を行う。</p> <p>①対面またはオンデマンド動画の視聴、および質疑応答による授業の受講を行う。</p> <p>②ミニツッペーパーによる授業内容の整理を行い、知識の定着を図る。</p> <p>③予習・復習により、授業内容と現実の人間行動との関連について考察することを重視する。</p>						
プログラムを構成する科目						
科目番号	授業科目名	学修目標	Q1	Q2	Q3	Q4
42637	心理学概論A	心理学の考え方や研究方法を学び、感覚・知覚・学習・記憶・思考・感情などの領域における基礎知識を修得する。	○			
42638	心理学概論B	発達・社会・パーソナリティ・臨床などの領域における心理学の研究の基礎知識が修得できるようにする。		○		
42621	知覚・認知心理学A	感覚知覚に関する諸現象や基礎知識を学び、その仕組みと心理過程における役割を理解する。	○			
42622	知覚・認知心理学B	認知に関する諸現象や基礎知識を学び、認知過程と心理過程の特性を理解する。		○		
42623	学習・言語心理学A	学習心理学の基本的な現象、研究法、および説明理論について基礎知識を習得し、現実場面に応用できるようになる。	○			
42624	学習・言語心理学B	学習心理学の複雑な現象と説明理論について理解するとともに、言語心理学の基本的な現象、研究法、および言語障害について基礎知識を習得する。		○		
42625	感情・人格心理学A	人格心理学に関する理論や実証的な研究が理解できるようになる。	○			
42626	感情・人格心理学B	感情心理学に関する理論や実証的な研究が理解できるようになる。				○